

ルサンチマン：人は価値観を前景化させる

2020年02月23日 小槻峻司

最初に個人的な体験談をします。私が博士課程2年の時に、大学時代の友人と旅行に行きました。夜に或る友人から「小槻は良いよな。まだ学生で責任もないし楽そうやもんな。」と言われました。私はその時、博士課程に進み研究者の道を選んで本当に良かったと信じていたので、「うるせー！楽しんで卒業した経済学部のお前にそんなこと言われたないわ！」と衝動的に怒りました。当たり前ですが、本当にその理由が正しければ、怒りなんか湧かない筈です。この時は、何故こんなにも怒りを覚えたのか不思議でした。そのプロセスをちゃんと理解できたのは、後にルサンチマンという概念を知った時でした。

ルサンチマンはフリードニヒ・ニーチェに依って示された、人間の自己肯定プロセスです。彼はその議論をキリスト教などに向けましたが、ここでは簡単な例を挙げます。イソップ寓話に「すっぱい葡萄」という話があります。葡萄を食べられなかった狐の想いを描いた寓話ですが、ルサンチマンのプロセスでは下記の様に価値観は転倒化されます：

- (1) 葡萄への恨み
- (2) あれはすっぱい葡萄だったのだ
- (3) 甘い葡萄を食べるのは健康によくはないから、食べない方が良いのだ。

この(3)のプロセスで価値観は転倒化されています。つまり、「或る価値観とそれに基づく選択の上に、今、自分が直面する現実がある」のではないです。人は、「今、直面する現実を肯定化するために、或る価値観を作り、前景化させる」のです。

先の例でいえば、「博士課程に進んだことを肯定化する」ために「本当は就職するのもありだと思っていた」弱い自分を無意識下で抑圧していたのだと思っています（簡単に言うと不安だった）。それが、友人の一言で発露したのだと思います。別の例として、アドラー心理学の著作、「岸見一郎・嫌われ勇気」に自分が赤面症であるために、好きな人に告白できないという少女の話が出てきます。アドラー心理学では、これを「好きな人に告白して失恋するという最悪の事態を回避したい。だから、赤面症という言い訳を作り出している」プロセスと喝破しています。ここでも、原因は後から前景化されています。

「何か理由があって、選択をして、そして今の自分がある」というのが一般的な考え方です。しかし、ルサンチマンの考え方を知ると、本当にそうなのか？と疑うことが出来ます。おそらくその本質は、人間の持つ強烈な自己肯定願望です。今の自分を肯定するために、価値観はいくらでも作り出し、前景化できるのです。自分が何かに強く怒る・悲しむ時は、自分の恐れ・不安・抑圧を深く知るチャンスでもあります。ルサンチマンという概念が、その理解を助けてくれるかも知れません。

余談 1

このルサンチマンは、基本的に自分に向けるべき考えで、他人に向けるととても嫌な人間になるので気を付けましょう。「自分はお金稼ぎには興味がないから、研究者になったのだ」「論文を書くより、研究者としてサイエンスを極めたいのだ」「大学の教員としての本務は、研究の前に教育である」などなど。私自身も含め、多くの人間は、現在の自分自身を肯定するために、価値観を前景化しているように見受けられます。それは、人が本質的に弱く、理由もなく自身を肯定することが、とても難しいからだだと思います。誰かに向かって、「その価値観ってルサンチマンじゃないですか？」と問うことは、余計なお世話であり、不毛です。大人として、他人に向けてはいけません。

余談 2

For the first 30 years of your life, you make your habits.

For the last 30 years of your life, your habits make you."

私の好きなヒンズーのことわざです。この諺は何を意味してるのでしょうか？私は、この諺も、年を取るにつれて高まる自己肯定願望の表れのように思います。

マズローの5段階の自己実現理論では、4段目が「承認の欲求」です。マズローが言うには、承認の欲求は、「他者承認」から「自己承認」へと遷移するそうです。それが、人間としての成熟であると。しかし、皮肉的な目向けると、この遷移も自己肯定願望の表れだと見做せます。背伸びするのも疲れてきたし、他人と比較するのはそろそろやめて、自分をもっと肯定していこう。そう思い始める分岐点が、ちょうど 30 歳くらいなんじゃないかと思います。同世代の友人を見ていると、丁度 30 歳ぐらいで自分の限界を認知し、「他人と比較するゲーム」から「自己受容」へと遷移させていきます。それはおそらく、人間の幸福最大化には必要な遷移で、善です。何を言いたいかというと、（おそらく生存本能から）人は段々と成功体験に縛られ、価値観が硬くなっていきます。柔軟な考えが出来る 30 歳までに、挑戦し、人と議論し、失敗し、自分の価値観を磨くことが大事です。33歳の私は、これからより強くなる（だろう）自己肯定願望・固くなる価値観と、向き合っていくんだろうなと、ぼんやり予期しています。その時に、自分の価値観がルサンチマンではないかと、見直せられるだけの余裕は持っていたい。

参考図書：

永井均「ルサンチマンの哲学」

とはいえ、凄くお勧め、ではない。ニーチェについては、私ももっと良い本に出会いたいと思っているので、良書があれば共有して頂きたいです。